



ND BULLETIN

Vol. 205
issue
March 2021

〔特集〕

コロナ禍における本学の取り組み

新型コロナウイルス感染症対策本部



NDSU学生交流会

清心川柳あつまる

灯火に祈りをあつめよう 清心のクリスマス

新型コロナウイルス感染症への取り組み

学長メッセージ

学長 原田豊己神父



昨年2月1日に新型コロナウイルス感染症は指定感染症として定められ、現在でも感染者は全世界で増加しています。亡くなられた方、後遺症に苦しむ方に心を痛めます。また、他者のために懸命に努力されている方々に敬意と感謝を表したいと思います。

皆さんは、この1年間不安と困難の状況を体験されました。そうした体験のなかでの切実な思いを大学に届けてくれたメールは、本学が行っている対応についての理解と同時に、解決しようがない、どうしようもない心の動きを分かち合うものでした。これで十分という言葉を持っていませんが、様々な思いに耳を傾け、ともに在ることを「ブルーのライトアップに思いを込め、会えない距離をこえて、祈りを届けます」と表現しました。

科学の進歩によってこの感染症を抑え込む研究が進んでも、人間が持つ心の傾きは、一人ひとりが意識するしか手立てがありません。抑圧された雰囲気は、他者に対する攻撃、暴力に現れています。あきらめの気持ちが、どうでもいいという自暴自棄に陥らせます。閉塞感は、追い詰められた心から差別を生み出します。「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」、

「隣人を自分のように愛しなさい」との聖書の言葉を大切にしたいと思います。

教職員一同いつも皆さんとともに在りたいと願っていますし、本学全体でサポートする体制をこれからもさらに充実させ維持してゆきます。

昨年の卒業生代表の謝辞に託された思いを、困難に耐えている皆さんに、会えない距離をこえて届けます。「人間同士でないとできない温かみのある対話や討論、そして学びあうことなどは、どれだけAI技術が発展しても消え去ることはありません。(略)調べたら回答がすぐに出てきたり、様々な提案が出てきたりする世の中で、効果的にメディアを活用しつつ既存の価値観や日本文化の良さを継承しながら、自ら選び、考え、他者とともに社会を作っていくように、日々努力して参ります。(略)今回のような予期せぬ出来事に遭遇したとき、自らの不遇を嘆くばかりでなく、できることを見つけ、より心豊かに過ごせる人でありたいと思います。」

コロナ禍におけるこれまでの授業支援を振り返って

遠隔授業支援チーム長・学務部長補佐 星野佳之

2020年度の初めには新型コロナウイルスについて今よりも不明なことが多く、感染症が拡大を続ける中で、大学の使命としてなお学びの場を提供し続けるために、授業を遠隔で開講することとなりました。これにはまず、学生の自宅での受講環境を整える必要があり、本学では主に次のような支援策を実施しました。

学生へのPC・Wi-Fiルーターの貸与／遠隔授業を受講するための通信量の補助／附属図書館の郵送貸出／授業の資料を自宅最寄りのコンビニで印刷できるネットプリントサービス／遠隔授業に関するQ&Aサイトの開設

これと同時に、大学や授業担当者の側にも相応の準備が必要となりました。学内の通信環境の整備など、設備面での整備がまずは一つ。しかしそもそも遠隔授業自体のノウハウが他大学同様に本学も乏しく、急遽「遠隔授業支援チーム」を学内に構成して、一からこれに着手しました。

第1期授業の開始日を延期したとはいえ、猶予は4週間ほどしかありません。最初の2週間で準備をして講習会を

開き、残りの2週間で教員に開講の準備をお願いしました。尋常ではない日程です。授業で伝えられる本質的な内容は変わらなくとも、対面から遠隔へという根本的なフォーマットの転換は、微修正では済まない変更を、全ての授業にもたらします。これに取り組んだ常勤・非常勤全ての授業担当者の労苦と、また環境整備と授業担当者支援の二方面に奔走した事務職員の尽力とがあって、なんとか第1期授業の開始に辿り着きました。その後も多くの授業が手探りで進み、学生には常ならぬ戸惑いと困難があったと思います。その大変な一年間を、本当によく学んでくれました。

2021年度にも基本的に支援策は継続されます。これを土台に、学生が学びに集中できる環境を更に整えていくこととなります。

今の在学生は否応なくポストコロナの第1世代です。卒業後に巣立つ先がどこであれ、必ず、持てる業の全てを捧げて混乱期の立て直しに貢献するでしょう。その日のために、今は各自の学びを大事に深めて貰いたいと思います。

これまでに行った対策・支援 2020年2月から実施した主な対応・支援は以下のとおりです。

月	学 修 支 援	学 生 生 活 支 援
2020年 2月	—	・新型コロナウイルス感染症「注意報」通知。海外渡航における注意事項発信。新型コロナウイルス感染症「警報」通知 ・卒業関連行事の中止を発表。卒業証書等はゼミ単位で渡すこととなる。クラブ・サークル活動、集会、学外者が集まるイベントなどを中止もしくは延期とする。
3月	・2020年度第1期授業の開始を予定通り4月9日に開始することを知 ・入学式、オリエンテーション日程変更等を知 ・遠隔授業支援チームによる教員・学生への支援始まる	・新型コロナウイルス感染症「警報②」通知 ・新型コロナウイルス感染症「警報③」通知 ・入学式、オリエンテーション日程変更等を知
	・授業開始を4月9日から4月30日に変更したことを通知 ・授業開始後、講義科目は原則遠隔授業とすることを通知 ・履修登録について、3日から学外のPCからNサポの「履修登録」及び「抽選希望登録」可能とした。(新入生は6日から)また、e-learningを活用した授業実施について、全学生にPC所持やインターネット環境についてアンケート調査を実施。遠隔授業を受けられない場合の対応、対面授業を行う必要がある場合は、リスク軽減のため3つの条件(換気の悪い密閉空間、多くの人が密集、近距離での会話や発話)が重なることを徹底的に回避して授業を実施することを通知 ・新入生オリエンテーションでNサポの「履修登録」及び「抽選希望登録」利用の仕方について説明 ・附属図書館の貸出図書の間延長・冊数増・返却ポスト利用のサービス開始	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止についてのお願い通知 ・2020年度学生定期健康診断の延期について通知 ・授業開始日の延期期間にとるべき行動、相談窓口について通知(感染症防止のために取るべき行動、発熱等の風邪症状がみられるとき、学生及び家族、またはアルバイト先等で感染が確認されたとき、海外渡航または国内感染地域への訪問について、クラブ・同好会等の活動の中止、臨時休業となる場合、マスクの作り方など) ・14日から学務部キャリアサポートセンターがオンラインにより個別面談を開始
4月	7日 東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡の7都府県に緊急事態宣言 ・「緊急事態宣言」発令に伴い、宣言が発令された対象地域に在住する学生及び宣言発令の2週間以内に対象地域を訪問した学生の出校停止と全学生に対して、不要不急の外出の自粛を要請。出校停止となった学生への相談窓口等諸連絡通知	
	16日 緊急事態宣言を全国へ拡大	
	・全学生を5月6日まで出校停止とした。(ただし、学科長等の部局長が必要と認めた場合を除く) ・遠隔授業の受講に必要なPCを所有していない学生へのPCの貸与始める ・遠隔授業の受講に必要な通信環境の整備に係る費用(通信料・ルーターの購入費用等の補填)の支援始める ・附属図書館の図書の郵送貸出始める	・学長から4月30日の授業開始にあたってメッセージ発信
	・附属図書館の電子資料の利用方法を周知する	・2020年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する大学の支援策について通知
	14日 北海道・東京・埼玉・千葉・神奈川・大阪・京都・兵庫の8つの都道府県を除く、39県で緊急事態宣言を解除	
5月	・出校停止を5月31日まで継続することとした。 ・附属図書館所蔵の資料や学外所蔵資料の複写物の郵送利用、19日希望図書のメールでの申し込み始める。	
	25日 全国の緊急事態宣言解除	
	・出校停止を6月10日まで継続することとした。	
6月	・授業で使用するプリントを100ND教室で配布することとした ・19日から附属図書館が学部4年生と大学院生に限定して入館を認める ・25日からネットプリントのサービス(セブンイレブンでの印刷)を開始	・19日から学務部キャリアサポートセンターが来室利用を再開 ・キャップ・アンド・ガウン授与式中止にともなうキャップとガウンの貸与を行う
7月	・1日から附属図書館が全学生を対象に開館 ・以下の対象学生に通信料金の支援始める ①遠隔授業受講のためにモバイルWi-Fiルーターまたは固定インターネット回線の新規契約をした者 ②遠隔授業受講のためにモバイルWi-Fiルーターまたはスマートフォンのテザリング機能を使っている者で、月間データ使用量が上限を超え、追加料金が発生している者	・学内ワークスタディの再開 ・入学感謝の集いを開催(延期となっていた入学式の代わり)
8月	・附属図書館がノートPC・プリンタの利用可、一回60分の利用を2回まで可能とする。	・学長から第2期の授業開始にあたってメッセージ発信 ・学長から授業方法・学費に関する考え方について発信 ・奨学金等の改定 ①緊急・応急奨学金 ②一人暮らし応援奨学金 ・実習等の実費を返還することとした。 ①児童学科ピアノ練習室使用料(第1期分) ②児童学科保育実習Ⅱ実習費 ③食品栄養学科管理栄養士履修費・実習費(調理学実習Ⅰにかかる一部)
9月	・25日 第2期開始 ・購入教科書の宅配支援(経費は大学負担)、学内Wi-Fi環境の強化、対面授業での感染症予防・拡大防止策の徹底(パーティション、サーキュレーターの設置等)、遠隔授業と対面授業を並行して行うハイブリッド型授業実施のための機器整備、Nサポを利用した大学への質問システムの稼働 ・第2期のOPT教室の使用について、学内で遠隔授業を受講する場合卒業提出用の印刷に限り認めることとした ・第2期の第2CALL教室の使用について英・仏・独・中国語の遠隔授業の受講に限り認めることとした ・附属図書館が第2期からの以下の緩和措置実施。入館予約不要、開館時間の延長、滞在時間の延長、学生用コンピュータの利用を予約制にする	・介護等体験の中止に伴う実習費を返還することとした。 ・教育懇談会のリーフレットを作成し、遠隔で実施
10月	・12日から授業で使用するプリントの学内での受取場所を100NDから1-1セミナーに変更した。 ・ノートPCの貸与に関する変更を決定した。 ①今年度の貸与については、「貸出金」を「保証料」に変更(1万円) ②PCの譲渡は行わない。 ③PCの返却と引き換えに保証料を返金する ・少人数のハイブリッド型遠隔授業に資する「スピーカー・マイク一体型機器」の貸し出しを行うこととした。	・学内4箇所に体温検知システムを設置 ・ピアサポーター説明会実施 34名が参加 ・「クラブ・サークル紹介Movie」をHP、Youtubeで公開 ・スポーツデーを学部別に午前と午後に分けて実施。参加を義務付けてはいないが、両学部合わせて133名が参加した。 ・学長の発案により、コロナ禍での学生生活など学生の思いを川柳に託して学長に届けてもらう企画「清心川柳 2020 大募集! 原田学長にあなたの思いを届けてください!」を募集した。 ・「卒業論文」(ゼミ)の学生のピアノ練習室使用料について、遠隔地に居住し出校できない学生のみ返還することとした。
11月	・附属図書館が4月以降閉鎖していたラーニング・ commonsとグループ学習室の利用を再開した。ただし、予約制(1か月前から予約可)で2時間以内の利用、消毒の徹底することとした。 ・授業の改善につなげるため、遠隔授業等に関するアンケートを遠隔授業を含むすべての授業(受講者5名以下の授業を除く)に対する学生の意見等をNサポを利用して聴取した。	・「新型コロナウイルス感染防止対策のための NDSU 活動指針」の「学生の課外活動」の項目について、レベルの引き下げは行わずレベル2のまま、土日だけの活動を平日も可能にする修正を行った。 ・ピアサポーターによるイベント「NDSU学生交流会〜ちょっと大学行ってみたい?〜」実施。約80人が参加、ピアサポーター35名が参加した。 ・「清心川柳2020」に応募があった全作品(37件)を公開した。
12月	・ノートPCの貸し出しについて、既に借りている学生と新たに借りたい学生に対して、貸し出し要領を情報センターが manaba folio で学生に周知 ・OPT教室印刷ポイントの追加申請を可能とした。	・HPにクリスマス特設サイトを設置。コロナ禍において行われる本年度のクリスマス行事について、参加できない学生や一般の方々のために、動画配信を初めた。 ・「冬季休暇中の過ごし方および緊急連絡先について」学生に周知。コロナに感染、濃厚接触者と判定またはその疑いがある場合の連絡方法を周知
2021年 1月	7日 1都3県に緊急事態宣言発令	
	・2021年度も引き続き遠隔授業を行う必要があることから、新入生には全員が遠隔授業に対応するノートPCとインターネット環境を準備するよう連絡すること、ノートPCの購入が難しい学生に対しては、貸与することとなった。	・ラウンジ・学生食堂の感染対策の強化 ・首都圏に続き、近隣の地域等で緊急事態宣言が発令されたことに伴う本学の対応について、感染対策及び体調不良時の対応について通知 ・感染症収束の願いも込めて、在学生・教職員等から感染対策に関するポスターを募集 ・2020年度卒業生の保護者の方へ「大学院第25回学部第69回フッド授与式並びに卒業証書・学位記授与式」について3月8日に予定していたフッド授与式を、卒業証書・学位記授与式と同日(13日)に実施することとした。また、3密状態を避けるため学部別開催とし、保護者出席をご遠慮いただくこととした。オンデマンド・期間限定で、保護者対象に式の動画を公開 ・海外渡航の注意事項及び帰国時の対応について通知

大学生活の今

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対策・支援についての最新の情報は本学ホームページにてご確認ください。学生の皆さんには、manaba folio(2021年4月からNサポ)で随時配信しますのであわせて確認するようにしてください。(2021年3月現在)。

対面授業



席の間隔をあけ、着席可能な席に座席シールを貼付しています。教室前にも座席表を掲示し、着席可能な席をわかりやすくしています。

各部署窓口



各窓口には、飛沫防止アクリルパーテーションを設置しています。また、証明書自動発行機には、密にならないようフットマークとガイドロープを設置し、窓口と発行機の入口を分けています。

建物入口



在学生用の門、東門(警備員室)、ヨゼフホールB棟、附属図書館の入口に体温検知システムを導入しています。正門には体温計を配置。各入口には、消毒液も常設しています。

学食

2020年6月にリニューアルした学食は、メニューを制限するほか、座席数も制限し、対面座席にならないように工夫し、飛沫防止アクリルパーテーションを設置しています。

その他の対策

マスク着用の呼びかけ、定期的な教室および各部署の換気、ソーシャルディスタンスの確保(3密防止)の呼びかけを行っています。学内設置のハンドドライヤーやウォータークーラーの使用を停止しています。

体調不良を感じたら？



「通常の生活において心がけること」、「体調の不良が生じた場合」、「感染の可能性がある場合」が生じたら、大学ホームページにアクセスし該当する部署に連絡してください。

リンク先:【在学生の皆様へ】最近の感染拡大を踏まえたより一層の対策強化について(2020.11.26掲載)



NDSU 学生交流会 「ちょっと大学行ってみん?」を開催

NDSU学生交流会とは、新型コロナウイルス感染症の影響で本来のキャンパスライフがスタートできない学生が、学生同士での交流を通して疑問や不安を解消するための取り組みで、ピアサポーターによって企画・実施されたイベントです。ピアサポーターとは、学生同士の主体的な学びあい、支えあいに携わる学生スタッフのことです。今回募集したところ、35名が集まりました。

2020年11月7日(土)9:30から、NDSU学生交流会「ちょっと大学行ってみん?」(在学生対象イベント)を開催し、約80人の学生が参加しました。

本学ではアドバイザー制度を始め、フォーマルな各種相談窓口を用意していますが、学生が気軽に何でも聞くことができるインフォーマルな場も必要だと考えました。

「学科の先輩に話を聞こう」「サークルの先輩の話を聞こう」「大学に伝わる歴史や文化を知ろう」「先輩の就活体験を聞こう」「先輩の留学体験を聞こう」「図書館を利用してみよう」「清心ホットカフェ」のそれぞれのコーナーでは、ピアサポーター自身が新入生の頃に抱いていた不安を思い起こしながら、「後輩を助けたい」という気持ちをもって企画されました。新入生はそのような先輩に履修の仕方やアルバイトなどについて尋ね、不安解消すると同時に、笑顔で楽しい時間を過ごしていました。今後も不安を抱える在學生に寄り添う支援に努めてまいります。



交流会の様子は
ブログをご覧ください。

就職活動・就職支援の今

キャリアサポートセンター

■ 現在の就職環境

2020年は、新型コロナウイルス感染症の終息が見えず、本学では出校制限が継続された中、企業は優秀な学生を確保しようと、3年次にインターンシップを経験した学生に対して、早期選考で内定を出す先が続出しました。採用活動は、多くの企業が説明会や面接等の実施において、従来の対面型とオンライン型を併用するハイブリッド化が定着した年となりました。

採用活動のオンライン化により、移動時間や経費を気にせず就職活動が可能となったため、地元や都市部を問わず選考を受け易くなり、企業等に対する学生の意欲や理解度、働き方が問われてくる傾向にあります。

また、コロナ禍による企業業績の悪化から、学生の安定志向が一段と強まり、特に地方では公務員人気が高まっています。

就職環境は、これまでの「売り手市場」から一転して「買い手市場」の様相となりました。企業の約6割が、Webを活用した広報やブレ期の活動を増やすなど、早期から積極的に学生との接点を増やしつづも、選考基準を厳しくすると回答が2割を超えています。その状況に呼応するように、インターンシップ等のプログラムへの参加経験がある学生は、9割を超えるとの調査結果が出ています。

現在、採用活動の早期化や多様化など、状況が刻々と変わっていく中、大学による就職支援はもちろんのこと

ですが、これまで以上に、学生自らが就職先や働き方に関心を持ち、インターンシップへの参加や情報収集を行う、一歩踏み出す姿勢が求められます。

■ 本学の取組み

本学では対面式での就職支援を大切にしつつ、教員と連携して学生に対する動機付けや就職情報の提供に努めるとともに、オンラインでの取組みを拡充しています。

- ①個別面談の充実
- ②セミナー動画の配信
- ③ライブセミナーの開催
- ④提出物等のオンライン対応
- ⑤SNSの活用拡充

なお、教職・保育職を志望する学生については、教職支援センターで同様の取組みを行っています。

■ 保護者の皆様へのお願い

学生にとって、就職は人生の中で大きな節目であり、就職活動は貴重な経験です。就職活動をする中で、お嬢様が落ち込む、一人で不安になることがあるかもしれませんが、多くの学生は「就職活動を通じて人間的に大きく成長した」と言い残して卒業しています。

保護者の皆様におかれましては、お嬢様を信じ、就職活動を成長のワンステップと位置付けられて、一歩下がって見守っていただきますようお願いいたします。

思いのこもった川柳 あつまる

ー清心川柳2020大募集! 原田学長にあなたの思いを届けてください!ー

学生・教職員を対象に川柳を、一人一句までとし受け付けたところ、37句の応募がありました。募集期間は、2020年11月2日(月)～7日(土)でした。

2020年11月11日(水)に、集まった全37句を大学ホームページにて発表しました。この取り組みは、学長の原田豊己神父が、コロナ禍で大学生活を送る学生たちの様々な思いを受け止めようと企画したものです。集まった作品は、オンライン授業のことや、一人で過ごす日々のこと、友だちと会える喜びなど、コロナ禍での学生たちの思いが詰まったものでした。

「ズーム越し 操作を学ぶ 学生に」
「口パクか? いえいえ教授 ミュートです」

動画配信操作に不慣れな教員と学生の軽妙なやりとりが想像できる作品など、苦労の中にも、ほっこりした気持ちにさせてくれる作品もありました。

原田学長は、「いずれの句も秀作ばかりで、心に響きます。」とコメントし、「読みかえす とどいた想い 目になみだ」と返句しました。



応募のあった全37句は、
大学ホームページでご覧いただけます。

灯火に祈りをあつめよう 清心のクリスマス

Notre Dame Seishin University Christmas

2020年度のクリスマス行事は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、例年とは異なり、規模を縮小し、参列者を制限しての開催となりました。

また、クリスマス行事に参加できない在学生や毎年参加を楽しみにしてくだっている地域の方々に向けて本学ホームページにクリスマス特設サイトを開設しました。

2020年12月3日の点灯式に始まり、準備の様子、アドヴェントコンサート(動画配信のみ)、クリスマスの集い(12/6)、クリスマスミサ(12/7)、クリスマスコンサート(動画配信のみ)などをブログや写真、動画によって公開しました。

今回のテーマは学生たちが考えた「灯火に祈りをあつめよう」。校舎をブルーにライトアップし、そのライトアップに大切なのちへの思いを込めました。これまでのクリスマスのように集うことはできませんでしたが、コロナ禍にあっても、本学が伝統的に大切にしているクリスマスの心を共有できる取り組みを模索しました。



本年度は、ノートルダムホール中央棟とノートルダムホール東棟を本学のカラーであり、聖母マリアを象徴する色ブルーにライトアップし、医療従事者の方々や地域の皆様への、感謝と祈りの気持ちを込めました。

青でとどける、大切なのちへの思い

コロナ禍でのクリスマス。

感染によって苦しんでいる方々へ。

最前線で働く医療従事者の方々へ。

生活が一変し、

日々大変な思いで過ごしている方々へ。

今年の清心のクリスマスは、

ブルーのライトアップに思いを込め、

会えない距離をこえて、

祈りを届けます。

点灯式

12月3日(木)17時30分～

於:カリタスホールのロビー、図書館前のもみの木の前

本学学長原田豊己神父の司式により、キリスト教学Ⅲの受講生が侍者を担い、点灯式がとり行われました。今回は動画配信を主としたため、学生・教職員の参加はできませんでした。

開式のことばの後、学生の代表により「ヨハネによる福音書」1章1-9節が朗読され、その後、原田神父のお話がありました。

続いて、原田神父により、カリタスホールロビーの馬小屋が香炉・聖水を用いて祝別され、馬小屋とツリーに火が灯りました。そして、もみの木の前へと場所を移し、今度はもみの木が祝別されました。一同が手を合わせて祈りを捧げると、もみの木のイルミネーションに青色を基調としたあかりが灯りました。



クリスマスミサ

12月17日(木)16時45分～17時30分

於:カリタス200

「クリスマスミサ」が原田神父の司式により行われました。ミサの準備は、クリスマスの飾り付けも含めて昨年度に引き続き「キリスト教学Ⅲ」の受講生約150名が中心となって進められました。司会や聖書朗読、ローソクや香炉の奉仕を行う侍者も学生が務めました。

今年は、他の行事と同様に参列者を限定し、聖歌は声を出さずに心の中で歌い、オルガンのみでの演奏となりました。

共同祈願にて、学生は「この1年厳しい状況で学んできました。これから先輩たちは就職、私たちは引き続き厳しい状況での授業となりますが、清心の学生が望んだ道に向かって進むことができますように」と祈りをささげました。参列者には、学生手作りの心のこもったクリスマスカードが配布されました。



クリスマス行事の詳細や、アドヴェントコンサート、クリスマスファミリーコンサートは、大学ホームページクリスマス特設サイトでご覧いただけます。



10月
October

Event

第一生命保険株式会社岡山支社様から 知育玩具等の寄贈

2020年10月9日(金)、ノートルダムホール会議室にて、第一生命保険株式会社岡山支社から、本学の児童学科を中心に実施している「清心子育てプロジェクト」に寄贈がありました。

寄贈式では、同支社の鈴木慎一社長より「新型コロナウイルス感染症の影響で営業活動を自粛している中で、地域の皆さんにできることはないかと考え、今回、子どもたちのために贈らせていただきました。」と、今回の寄贈に至る経緯と、同社の地域貢献活動や岡山に所縁のある創業者矢野恒太氏のご紹介がありました。終始和やかな雰囲気で行われました。

清心子育てプロジェクト担当の児童学科 伊藤美保子准教授に寄贈品が手渡され、伊藤准教授からは「寄贈いただき心より感謝申し上げます。頂いた品々は、今後の『清心子育てプロジェクト』で大切に活用させていただきます。」との謝辞がありました。

式では、同プロジェクト活動に必要な育児用品、知育玩具、感染防止対策用品などが贈られました。

11月
November

Event

『食の大切さ』を小学生に伝える 「地域を学んでのこさずたべよう事業」

本学は「令和2年度地域を学んでのこさず食べよう事業」(岡山県)を受託し、食品栄養学科(吉金ゼミ)の学生が赤磐市立城南小学校3年生を対象として活動を行いました。

本事業は、若い世代の食品ロス削減意識の醸成のため、大学生が、食品がつくられるまでの労力や食品が生まれてくる地域の土壌・気候・風土等をフィールドワークで研究し、若者の視点や発想を生かした小学生向けの教材を作成の上、小学校での出前講座等を行うものです。

2020年11月26日(木)、出前授業の事前取り組みとして、本学大学生・大学院生11名が赤磐市立城南小学校3年生とともに、赤磐市特産のごぼうの収穫を行い、農産物がつくられる労力を実際に体験しました。2021年2月2日(火)には収穫体験やフィールドワークを踏まえ、城南小学校での出前授業を実施しました。



学生生活



天文部



箏曲部



吹奏楽団



バドミントン部

「クラブ・サークル紹介Movie」を公開

クラブ・サークル紹介Movieを2020年9月から公開し、現在(1月12日時点)30クラブを紹介しています。2020年度は「新入生向けクラブ紹介」が開催できなかったため、クラブ・サークルの代表者に活動紹介Movieの制作を呼びかけたところ、多くの団体が参加してくれました。

コロナ禍において課外活動が制限されているなか、学生たちがこれまでの日々の課外活動のなかで撮り

ためた写真や動画を編集しました。どのクラブに入ろうか迷っている1年生だけでなく、2年生のみなさんがこの動画を見て本学のクラブ活動に興味を持ってもらえるよう作成しました。まだまだクラブの本格活動は難しいですが、様々な工夫をこらして学生生活を紹介していきます。

詳細はブログを
ご覧ください



学生生活



スポーツデーの開催

2020年10月17日(土)記念館にて、スポーツデーが実施されました。スポーツデーは、各学科1年生がスポーツを通して友好を深め、一丸となって競技に取り組む毎年恒例の体育行事です。今回はコロナ禍のため、文学部59名、人間生活学部74名が午前と午後に分かれて実施しました。参加を義務付けてはいませんが、合計133名ほどの参加がありました。

開会式では片山裕之人間生活学部長が「本日は、さわやかに、元気に、楽しく、コロナ感染症に注意しながら安全に行いましょう。」とあいさつをし、その後、体育祭実行委員会委員長の開会宣言によって競技がはじまりました。

競技はストレッチ、線鬼、ワンバウンドふらば～るバレーボールの3種目を行いました。いずれの競技も易しいもので、初心者でも楽しく体を動かして遊べる競技です。学科によっては規定人数に満たない競技

があったため、学科を越えてチーム編成しました。

閉会式では、本保恭子学務部長が「もしかしたら同じ学科でも今日初めて会えた人もいるかもしれませんが、さらに今日は学科を越えてチームを組み一緒に活動することもできました。」とあいさつした言葉のとおり、このような状況の中でも様々な工夫をした結果、例年以上に他学科の学生とも触れ合えるスポーツデーとなりました。

学 外 活 動



村中李衣 教授
第17回マルセン文化賞 受賞
第21回岡山芸術文化賞 受賞

人間生活学部児童学科の村中李衣教授が、文化・芸術分野で特にめざましい活躍をしたとして「マルセン文化賞」(2020年6月)を、そして優れた芸術文化活動の業績が認められたとして「第21回岡山芸術文化賞」(2020年7月)を受賞しました。

学 外 活 動



平松清志 教授
日本箱庭療学会
2020年度学会賞を受賞

2020年7月、人間生活学部児童学科平松清志教授(臨床心理学、心理療法学)が、一般社団法人日本箱庭療学会2020年度学会賞を受賞しました。この賞は日本箱庭療学会の諸活動における優れた業績を讃えることを目的としたものです。

学 外 活 動



小野真由美 准教授
観光学術学会 学会賞著作賞を受賞

2020年10月、文学部英語英文学科小野真由美准教授の『国際退職移住とロングステイツーリズム マレーシアで暮らす日本人高齢者の民族誌』(明石書店2019年7月)が、観光学術学会著作賞を受賞しました。この賞は、観光学の発展に貢献する成果を発表した研究者に贈られる賞です。

課 外 活 動



「第6回デモクラシー・ナウ！
学生字幕翻訳コンテスト」
最優秀賞受賞

英語英文学科3年の坂本光さんと平松三奈さんが「第6回デモクラシー・ナウ！学生字幕翻訳コンテスト」の課題5(ラディカルな核廃絶)において最優秀賞を受賞しました。また、1月24日(日)にはオンラインにて授賞イベントが開催されました。

アメリカの独立報道番組である「デモクラシー・ナウ！」のニュース動画を日本語に翻訳して字幕を作成するこのコンテストは、国内外の学部生や大学院生が多数応募するもので、英語力のみならず日本語力も問われる非常にレベルの高いコンテストです。

なお、昨年度も本学英語英文学科学生が同コンテストで最優秀賞を受賞しています。

村中李衣教授作の絵本「こくん」が世界の40冊に。
国際児童図書評議会の2021年バリアフリー児童図書に選定。

「2021年IBBY※(国際児童図書評議会)選定バリアフリー児童図書」に、日本(JBBY※)から推薦された7作品のうち、本学人間生活学部児童学科 村中李衣教授(児童文学、児童文化学)の作品『こくん』(童心社、2019年)が選定されました。

この絵本は、解説付きカタログに掲載され、2021年6月にイタリアで開催されるポローニャブックフェアより世界巡回を開始します。さらに、日本から推薦した図書はすべてトロント公立図書館内のIBBYコレクションに加えられます。



食品栄養学科 林 泰資教授 | アレルギー性鼻炎の予防及び／又は治療薬で特許取得

人間生活学部食品栄養学科の林 泰資教授がゼライス株式会社(本社 宮城県多賀城市)と共同開発した「アレルギー性鼻炎の予防及び／又は治療薬」が2020年3月6日に特許登録されました。

林教授は、生理学・薬理学の研究が専門で、2018年度から同社との共同研究に取り組んでいました。

林研究室とゼライスの研究チームは、コラーゲンの特殊な加水分解反応で得られるコラーゲントリペプチド(CTP)が、アレルギー性鼻炎の予防・治療に有効であることを、鼻炎モデルマウスを用いて明らかにしました。CTPは優れた皮膚浸透性、コラーゲン・ヒアルロン酸の産生促進作用などを有し、アトピー性炎症の軽減にも効果があることが知られています。林教授はCTPの抗炎症作用に着目し、モデルマウスを用いてアレルギー性鼻炎に対する作用を検討してきました。今回の研究で、CTPの経口投与がくしゃみや鼻掻きなどの鼻炎症状を軽減すること、またIgE抗体の産生を抑制することを明らか

にしました。

本特許は、2019年4月にノートルダム清心学園と同社が特許庁に共同で出願していました。この発明により、健康補助食品であるCTP摂取によって、花粉症などのアレルギー性鼻炎が軽減できる可能性があります。

【発明の名称】アレルギー性鼻炎の予防及び／又は治療薬
【出願番号】特願2019-070996
【出願日】2019年4月3日
【特許番号】特許第6671671号
【登録日】2020年3月6日
【発行日】2020年3月25日
【発行国】日本国特許庁(JP)
【発明者】林 泰資、酒井 康夫(ゼライス)、山本 祥子(ゼライス)
【出願人】学校法人ノートルダム清心学園、ゼライス株式会社

卒業生の活躍

長崎市遠藤周作文学館学芸員の本学卒業生、遠藤周作未発表原稿を発見

2020年2月、長崎市遠藤周作文学館学芸員の文学部日本語日本文学科卒業生(63期2015年3月卒)の川崎友理予さんが、文学館で預かっていた約3万1000点の資料の中から遠藤周作未発表小説「影に対して」の原稿を発見しました。

川崎さんは卒業論文を「遠藤周作『満潮の時刻』論ー病床体験から得たイエス像ー」の題目で執筆しました。そして、本学を卒業後は、長崎市の遠藤周作文学館の学芸員として展覧会を企画するなど活躍されています。

編集後記

今号は、「クロストーク 卒業生×在学生」をお休みし、本学の新型コロナウイルス感染症に対する取り組みについてお伝えしました。現在も、感染防止対策に大学全体で取り組んでいます。学報における、学生広報スタッフSPARKLEの記事も休止していますが、次号からは学生の記事も掲載していければと思います。205号の発行にあたりご協力くださいました卒業生、在学生、教職員の皆様に感謝いたします。(広報室)

聖書の言葉

強く、また雄々しくあれ。
恐れてはならない。
彼らのゆえにうろたえてはならない。
あなたの神、主は、
あなたと共に歩まれる。
あなたを見放すことも、
見捨てられることもない。

申命記 31章 6節

神に見いだされ、民を率い、エジプトの地から約束の地にむかうモーセ。眼下にはヨルダン川が流れ、その先の乳と蜜の流れる地を目前にして、神から「その地に入ることができない」と告げられたモーセ。それでも神へのゆるぎない心を表す言葉を後継者に託します。

「彼ら」は、具体的な敵というよりも人間が持つ不平不満、不安やあきらめを意味していると思われまふ。人間にとってつらいのは、見放され、否定され見捨てられることだと意識しているからこそ、あなたの神はあなたと共に歩み続けてくださると述べるのです。

新型コロナウイルス感染症の流行によって、社会が大きな影響を受けているなかで、「彼ら」は人間が持つ排他的な傾きかもしれません。

「ともだちって かぜがうつっても へいきだつて いってくれるひと」
(絵本「ともだち」谷川俊太郎文 和田誠絵)
私が信じる神は、まさに「ともだち」の姿をしています。

学長 原田豊己神父

Mini Serialization

Seishin Archives

今に続く清心の歴史をご紹介します

清心のクリスマス



新聞部(～1994年廃部)発行のN.D.S.C. TIMES(1953年1月12日発行)には、「聖夜のつどい 伝統を誇るタブロー公開」とあり、記事には、「本学の、クリスマス飾る伝統行事の一つは、音楽によって、古い契約の下になされたキリスト御降誕の物語りを示す活人画である。(中略)これら本校の精彩ある文化的行事を通じて、本学の特色を優れた見識と手腕とでもつて表示する機会を持ちつゞて行きたいと願うのは、限られた少数の者だけのものではあるまい。」と当時の学生によって書かれています。

現在もその願いは続き、クリスマスの心を伝える行事が続きます。(P.5に詳細) 行事の内容や伝え方は時代とともに形を変えても、本学教育の本質を大学全体で発信していくことは今でも変わりありません。

ノートルダムの風景

ノートルダムホール中央棟

2020年12月のクリスマスイベントに合わせて、本学のカラーであり、聖母マリアを象徴するブルーに、ノートルダムホール中央棟をライトアップしました。(P.5に詳細)

この棟は、1995年に竣工され、2020年に25周年を迎えました。学内で一番高い地上12階の総合施設です。講義室や研究所、会議室のほか、最上階にオラトリー(小聖堂)、塔屋にカリヨン(組鐘)を設けています。オラトリーは、宙に浮いた半円形の特徴的な形をしています。



Cover : ピアサポーター

2020年11月7日に行われた「NDSU学生交流会」において、担当に分かれ各企画の内容を考え、当日も受付から対応まですべてをこなしました。(P.4に詳細)このイベントは、マスク着用、手指消毒の徹底、飛沫防止アクリル板等を使用するなど、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じ実施しました。

ノートルダム清心女子大学 BULLETIN Vol.205

発行 ノートルダム清心女子大学 広報室

2021年3月1日

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

TEL(086)252-3107 <https://www.ndsu.ac.jp/>